池宗　真美　氏の学位審査結果の要旨

主査：木梨　達雄
副査：関本　貢嗣、蔦　幸治

I 型自己免疫性膵炎（AIP）は血清 IgG4 高値、IgG4 産生細胞浸潤や線維化を特徴とする原因不明の疾患であり、様々な膵外病変を伴うことから IgG4 関連疾患として指定難病にも含まれている。1 型 AIP の病態には獲得免疫のほか、自然免疫系の単球、好塩基球、M2 マクロファージの関与が報告されているが、自然リンパ球(ILC)の関与についてはいまだ不明である。ILC は産生するサイトカインによって 3 つのタイプに分類され、グループ 1（ILC1）は IFN-γ を、グループ 2（ILC2）は IL-5 や IL-13 を、グループ 3（ILC3）は IL-17A や IL-22 を産生し、慢性炎症やアレルギー病態に深く関与している。そこで、本研究では 1 型 AIP 患者（28 名）、慢性膵炎（10 名）、健常人(30 名)の末梢血 ILC 分画をフローサイトメトリーで調べ、その変動を調べた。その結果、総 ILC 数に関しては健常人と比較し AIP と慢性膵炎で有意に高かった。また、ILC1 は健常人と差がなかったが、ILC2、ILC3 が AIP と慢性膵炎において有意に高かった。一方、ILC2 のうち IL-33R 陽性分画に関しては健常人と有意差はなかった。また、これらの解析において AIP と慢性膵炎の間には有意差はなかった。これらの結果から、ILC2 および ILC3 が膵臓の慢性炎症持続に関与することが示唆された。本研究は 1 型 AIP における自然リンパ球の変動を初めて報告したものであり、学位に値すると判断される。